

第12回

沖縄21世紀ビギン



平成31年度全国高校総体開催！「感動は無限大 南部九州総体 2019」

響かせろ 我らの魂 南の空へ

9年ぶりに沖縄へインターハイがやってくる！

全国高等学校総合体育大会は、学校対抗で行われる通称「インターハイ」とも呼ばれる高校生最大のスポーツの祭典です。

平成22年に県内で開催されたインターハイ「美ら島沖縄総体2010」が、平成31年度に「感動は無限大 南部九州総体 2019」として沖縄、鹿児島、熊本、宮崎の南部九州4県で合同開催されます。

沖縄県で開催される競技種目は、8競技10種目で、選手・監督、大会役員、観客数など総勢約15万人の来場を見込んでおり、高校生日本一を目指して県内各地で熱戦が展開されます。



©インターハイマスコットキャラクター ワインくん

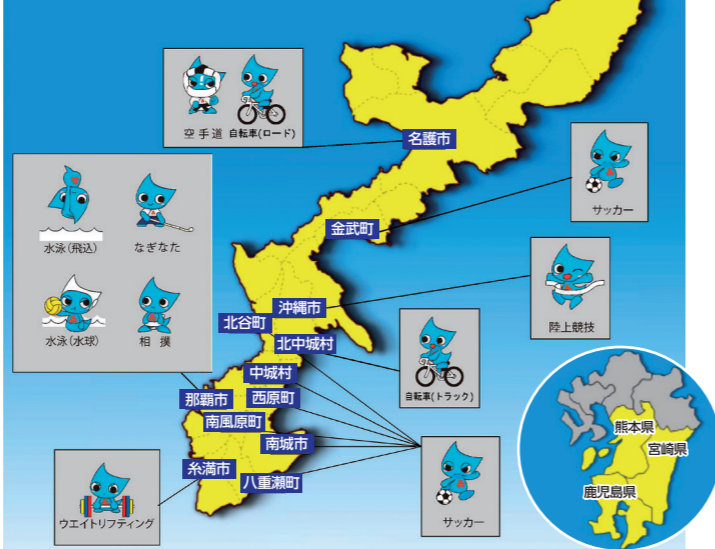


美ら島沖縄総体2010

大会総合ポスター

開催競技市町村

開催期間：2019年7月27日（土）～8月20日（火）



沖縄開催に向けた取り組み

大会スローガン「響かせろ 我らの魂 南の空へ」は、宮古高校出身の多良間健登君の作品で、南部九州4県の応募作品3,321点の中から選ばれました。

沖縄県実行委員会では、今後、競技力の向上や全県から訪れる選手・役員等の宿泊計画、開催300日前イベントの実施等、関係機関や会場地市町村と連携しながら様々な取り組みを展開して参ります。

インターハイは高校生最大のスポーツの祭典です。大会の成功に向け、開催地市町村や企業の皆様、県民が一体となって応援していきましょう！

問い合わせ

教育庁保健体育課
全国高校総体推進室

電話：098-861-0002 FAX：098-861-0003

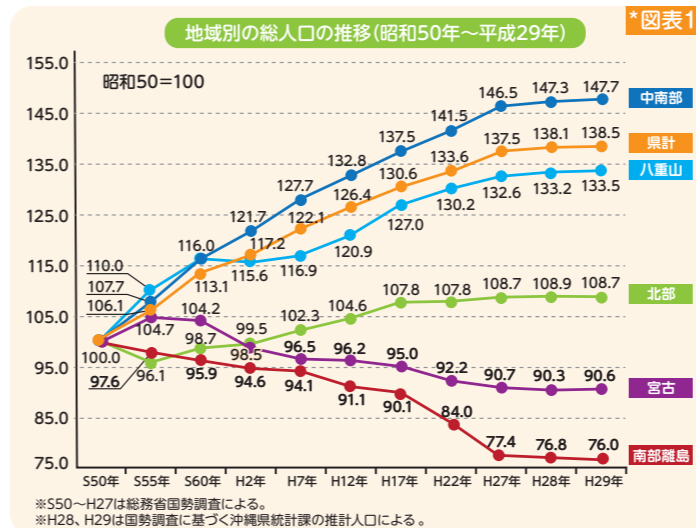
広告

人口について考えてみよう！

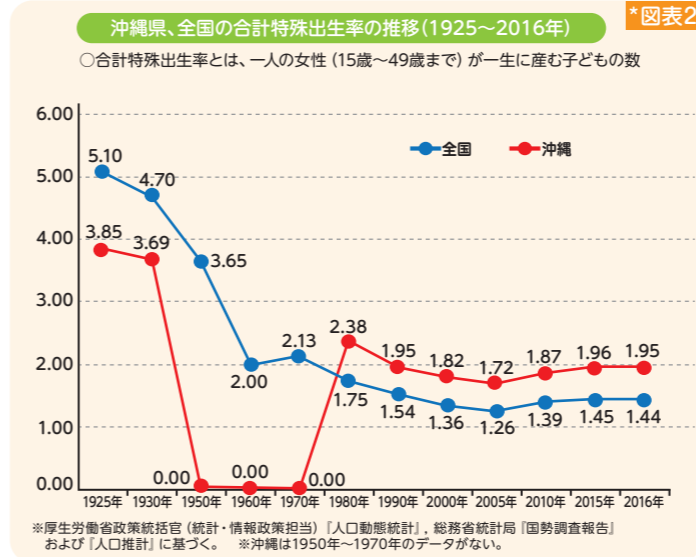


沖縄県の人口ってどうなっているの？

平成30年2月1日現在の沖縄県の推計人口(県統計課調べ)は約144万7千人です。平成27年国勢調査と比較し、約1万3千人増加していますが、平成37年前後をピークに減少すると見込まれています。また、沖縄県内の地域別人口(*図表1)を見てみると、地域ごとに異なる状況となっています。全国では既に人口減少が始まっていますが、人口減少の主な要因は、少子化の進行とされており、沖縄県も少子化が進行しています。



その背景には、ライフスタイルの変化などによる未婚化・晩婚化の進行、保育所の不足など子育て環境が不十分、非正規労働や低賃金など不安定就労により理想とする数の子どもがもてないことによる合計特殊出生率の低下(*図表2)などが挙げられます。また、離島・過疎地域では、都市部への人口流出も大きな要因です。



人口が減ると私たちの生活にどのような影響が生じるの？

人口が減少すると、現役世代が支えている医療、年金、介護など社会保障システムの維持のために現役世代の負担を増加させることとなり、また、防犯・消防、伝統・文化の継承など地域住民活動の維持が困難となります。

このようなことによる地域活力の低下により人口流出に繋がるほか、消費・購買意欲が減少し経済規模が縮小することで労働者の賃金が減少することも懸念されます。

私たちにできること

人口減少の回避のためには、個人、地域、職場、行政が各々の立場で、家庭生活や職場、社会のあらゆる面で、結婚・出産・育児を歓迎する環境を整え、県民が望めばそれを選択できるようにしたり、事業者は、生産性・効率性の向上に取り組みつつ、雇用の正規化や低賃金の改善など雇用の質の改善を図り、魅力ある就業の場を提供し、人口を支えることが求められています。

沖縄県の取組について

県では、人口の増加基調にある現段階から、沖縄県人口増加計画(まち・ひと・しごと創生総合戦略)を策定し、各種施策を展開することで、人口減少及びその構成変化に係る影響を最小限に食い止め、地域の活力と成長力の維持・発展を目指しています。

① 自然増を拡大するための取組

- 1 婚姻率・出生率の向上
- 2 子育てセーフティネットの充実
- 3 女性の活躍推進
- 4 健康長寿おきなわの推進

② 社会増を拡大するための取組

- 1 雇用創出と多様な人材の育成・確保
- 2 地域産業の競争力強化
- 3 UJIターンの環境整備
- 4 交流人口の拡大
- 5 新しい人の流れを支えるまちづくり

③ 離島・過疎地域の振興に関する取組

- 1 定住条件の整備
- 2 特色を生かした産業振興
- 3 Uターン・移住者の増加

問い合わせ

県企画調整課

電話：098-866-2026

FAX：098-866-2351

